



夜

の

戯

れ

成人指定

衣擦れの音がする



はっ…

服を…
脱いでいるのであるか…

はっ…

人の身体は
一部の五感が奪われると

その他の五感が
鋭くなるというが…

気分はどうだ…？

小狐丸



耳と鼻が特に
発達しておる…

刺激も強かるう？

み…っ
か…っ
ツ

は…っ

お前は狐の眷属ゆえ…

ん…っ！



気乗らぬ素振りを
しておいて

身体は正直…というやつか？

…っ！

みか……っ

づき……ッ!

もっと啼くといい

三日月宗近という男は

昔から
気まぐれなヤツでは
あった……

ほん……じやない?

……自隠しプレイを

してみたい……とな?

そうだ

プレイとは
その…
夜伽の際の
お話で？

そうだ

おぬしが目隠しを
されたい…と？

いや？

お前がだぞ

今宵は月が美しかろう
小狐よ

はあ…
しい

ソーデスネ

ほほほ



また逸興……

……



月の誘いに身を委ね

魅惑の世界へと
足を踏み入れることも

月にかこつけられ
なんでも
許されると
思いますな……

はっはっはっはっ

はっはっはっはっ
バレたか

キ

キ



で？
どうするんだ？



するの
か？

せん
のか…？

……
っ



分かりました……

ぬるん……

俺が言い出した
ことではあるが……

ぬる……

ぬる……

ぬる……
ぬる……

ぬる……

お前の欲に塗れた顔が
見れぬのは残念だな……

いまどんな顔を
しておる……？

ならば
はやくこれを
外ぬか……

お前は
ただそのまま

俺を感じている

目が見えぬだけで
こんなにも…

耳元を掠める
三日月の吐息と

しばし待て…っ
三日月…ッ

押し殺しても尚
漏れ出る
快楽を帯びた
その声音に

いつもよりも
遥かに強く
情欲を
かきたてられる…

ん…ッく…!

おお…
イッてしまった
のか…?

は…

は…

は…



ほー…

ほー…

ほー…

ふむ…

いい顔だな

いつもより随分と
早かったが…

ほー…
まー…



三日月…

手枷を取っては
くれんか…
おぬしに触れたい…



興奮したか？

…しました…

ちび
ちび

ほほほほ

素直なことは
よいことだ

おお：
そうだな

去……

…形勢逆転のつもりか？

されたまま…

というわけには
参りませぬ…

おぬしの
弱点は…

知り尽くして
おりますゆえ…

よほど余裕がない
ように見えるぞ？
小狐丸よ…

……っ！

い…きなり
そう来るとはな…

余裕がないのは
お互い様じゃろう？
三日月

ん…ッ

なるほど…
身体は正直な
ようじゃ…

待て…っ

そ…こは…ッ

おぬしも
奥まで挿れとうて
焦れておったのでは
ないか…？

あゝ
あゝ
あゝ

あゝ
あゝ
あゝ

あゝ
あゝ
あゝ

あゝ
あゝ
あゝ

あゝ
あゝ
あゝ

あゝ
あゝ
あゝ

先の仕返しか…？

おめえと…

啼いてください？

あ…

んあ

のお…三日月…

良い顔になって
きたではないか…

いぎ…つね…う

三日月は
きまぐれな男じゃ

ん…

ちゅ…

そのきまぐれさゆえに

ん…

お…

私以外の男にも
ゆらゆらと漂い

ん…

ん…

いっせ

気がかりとなる

身を預けて
しまうのではと

(ほ)

(ほ)

ほ

(ほ)

お主の瞳に映るものは
己のみであれと

お願い願うておるのは

はあ…ッあ！

こ…ぎ…ッ

私の方だと言つのに…

っ…ッ

あっ…んあ！

あっ…！

も…っ
出る…っ
出…ッる…あ！







ん？

しかし三日月よ…



酒が過ぎた
こととはいえ…

このような戯れは
この小狐以外には
してくださいませ…



せぬよ

お前が
心配しなくてよ
それぐらいは
弁えておる

モモ

疑わしい
ものじゃ…

うん

お前にしか
言えぬことだ

お前だから

俺は甘えているんだぞ

……

まったく…

貴方というお人は…

しかし酒と
戯れもほどほどに…

お前も楽しんで
おったではないか

それとこれとは
話が別じゃ

